

## Y08c 和歌山大学教育学部天文台の CCD 測光性能と測光観測

柴原由果、山口卓也、富田晃彦、尾久土正己 (和歌山大学)

和歌山大学教育学部屋上天文台 (以下、和歌山大学天文台) では、測光観測を精度高くなるための CCD カメラの整備、CCD カメラの性能評価を行ってきた。また並行して測光観測を行なっている。大学教育としての大学屋上天文台の活用を念頭に、これまでの成果を本年会でまとめて発表する。

和歌山大学天文台は三鷹光器製の口径 60 cm 反射望遠鏡を主望遠鏡として持っている。F 13 のカセグレン焦点があり、ここに SBIG 社製の ST-7E と ST-9E を取り付けて測光観測を行なっている。限定的ながらオートガイダーがあり、また John-Cousins の UBVRi 広帯域フィルターを持っている。

CCD カメラのダーク、バイアス、シャッタームラ、線形性などの特性について、和歌山大学学生自主創造科学センター (クリエ) で組み上げた CCD カメラ性能評価システムで検査した。測光の色補正項については、標準星の観測より求めた。同じカメラ・システムは、みさと天文台、かわべ天文公園にも設置されている。カメラ個々での上記の性能の違いについても調査することができた。観測の成果として、太陽系外惑星の transit 観測を中心に報告する。大学教育、天文普及での活用例も報告する。